



ネジバナ（稔花）。花はらせん状に咲く。奇妙であり、不思議でもめる。峰山霊園にて。

撮影：川野信之

胃がんハイリスク検診 (ABC検診) を受けてみましょう

血液検査であなたの胃の健康状態がわかります

従来胃がん検診では、レントゲン検査による一次検診(バリウム検査)が一般的ですが、近年では受診者の負担が少ない方法、そして少ない費用で検診を実施することが求められており、受診率向上のため、また、効率よく早期がんを発見するため手軽に実施できる検診を導入する自治体が増えていきます。

その方法のひとつとして、近年では血液検査をするだけで胃の状態を調べることができる胃がんハイリスク検診(以下ABC検診)が注目されています。ABC検診は胃の萎縮度をはかる『ペプシノゲン検査』とヘリコバクター・ピロリ(以下ピロリ菌)の感染を調べる『ヘリコバクター・ピロリ抗体検査』を併せて行うことで胃がんなど胃の病気のかかりやすさを調べることができる検診です。

ペプシノゲン検査とヘリコバクター・ピロリ抗体検査

①ペプシノゲン検査

胃粘膜が萎縮するとペプシノゲンの分泌量が少なくなるため、血液中のペプシノゲン値も低下してきます。このペプシノゲンの血中濃度を測定することで、胃粘膜の萎縮の程度を知ることができます。萎縮の強い人(ペプシノゲン検査が陽性)は胃がん発生の確率が高いことが分かっています。

②ヘリコバクター・ピロリ抗体検査

ピロリ菌に感染すると体内で抗体が作られます。この抗体を測定することで感染の有無を調べることができます。ピロリ菌が胃粘膜に感染している(ヘリコバクター・ピロリ抗体検査が陽性)と、胃潰瘍・十二指腸潰瘍や慢性萎縮性胃炎を発症しやすく、胃がんの発生にかかわりがあることが分かっています。

ABC検診とは

胃粘膜の萎縮は胃の老化現象として起こり、また、ピロリ菌の感染によっても引き起こされます。進行した慢性萎縮性胃炎は胃がん発生の原因となることが分かっており、①と②の検査を併せて行うことにより、胃がんの発生リスクを調べるのがABC検診です。胃の健康状態がわかるので、従来の検診と違って「自分が胃がんなど胃の病気になりやすいか」を知ることができます。

ABC検診では血液検査の結果の組み合わせで胃がんの発生リスクを3通りに分類します(表・図)。B・Cタイプは胃がんの発生リスクが高い方なので、精密検査として内視鏡検査を受けてください。また、その後もリスクに応じた経過観察期間がありますので、かかりつけ医と相談して定期的に内視鏡検査を受けましょう。Aタイプの方も胃の健康状態は良好ですが、胃の病気にかかる可能性はあるので、市の胃がん検診(バリウム検査)を受けましょう。

ABC検診を受けるには?

ABC検診は相模原市医師会が独自に行う事業ですので、対象者への通知(受診券の送付など)はありません。原則特定健康診査を受ける40歳以上75歳未満の方を対象としております。希望する方は医療機関の窓口にお申し出ください。なお、対応していない医療機関もあるので、協力医療機関については相模原市医師会メディカルセンター事業課(☎042-756-1700)までお問い合わせいただくか、相模原市医師会ホームページへ掲

日一日と暑さが厳しい季節となりました。体調管理には気をつけましょう。さて、今回のテーマは血液検査だけで早期胃がんの可能性について調べることができる胃がんハイリスク検診(ABC検診)とニュースで話題にもなりました生肉による食中毒の危険性についてです。ぜひご一読ください。

載しておりますのでご覧ください。

URL: <http://www.sagamihara.kanagawa.med.or.jp/>

本検査費用は有料で1,200円です。

さいごに

ABC検診は胃レントゲン検査に代わるものではなく、胃の健康状態を調べる検査です。より多くの方に手軽に胃の検査を受けていただき、より多くの胃がんを早期に発見することを目的としています。

病気の早期発見があなたの身体を守ります。

(相模原市医師会 加来 朝王)

表：血液検査結果による胃粘膜のタイプ分類

検査結果		ヘリコバクター・ピロリ抗体検査	
		陰性	陽性
ペプシノゲン検査	陰性	Aタイプ	Bタイプ
	陽性	Cタイプ	

胃がんの発生リスクが3つに分けられます!

図：タイプ別の結果説明と内視鏡検査間隔の目安

A

OK!

胃粘膜の萎縮はない健康的な胃粘膜です。胃の病気になる可能性は低いですが、他の疾患の可能性もありますので毎年胃がん一次検診(バリウム)を受けましょう。また、5年に1回程度内視鏡検査を受診しましょう。

B

よくないの?

ピロリ菌に感染しています。胃潰瘍や十二指腸潰瘍にかかりやすい状態といえます。また、ピロリ菌は胃がんにかかるリスクを高めることがわかっていますので内視鏡による精密検査を受診しましょう。また、経過観察としても2~3年に1回内視鏡検査を受けましょう。

C

精密検査を受けよう

胃粘膜に萎縮が見られ、胃がんなどの胃の病気にかかりやすいハイリスクな状態です。内視鏡による精密検査を実施し、病気の早期発見・早期治療に努めましょう。また、検査後も1年に1回は内視鏡検査を受けましょう。